People's News
2008年 1月5日
通巻 1299号
1968年12月12日第三種郵便物認可5,15,25日発行

人民新聞

発行所 人民新聞社
1部 150円 購読料半年間 3,000円
本 社 〒552-0023 大阪市港区港晴3-3-18 1F
TEL (06) 6572-9440 FAX (06) 6572-9441
Mailto:people@jimmin.com URL:http://www.jimmin.com 振替口座 00950-4-88555

The JIMMIN-SHIMBUN
3-3-18- 1F Kousei, Minato-ku, Osaka, Japan.
TEL 06-6572-9440, FAX 06-6572-9441
E-mail people@jimmin.com
Subscription; One year 6,000 yen
(include air mail postage)

HEADLINE

フリーター運動座談会
【2面】反戦・表現活動…多様なエッセンスを持ち寄った運動のスタート
【3面】［時評短評］いいかげんな出版業界に未来はあるのか？（五味正彦）
【4面】「文化的閉塞性」に対置する3つの柱
【5面】［漫画］貧困さんいらっしゃい／「居場所」としての労働組合の存在意義
【6面】労働組合の限界と新たな可能性／厳しい状況にある運動の中での仕事づくり
～特集第2部以降は次号に続く～
【7面】いま、パレスチナは～占領とオリーブ／パレスチナ日誌（12月17日～18日）
【8面】言わせて聞いて「新年あいさつ特集」

【新年特集】フリーター運動座談会

新自由主義に風穴を開け 資本主義を越えていく

①新たな社会運動としてのフリーターユニオン

2008年は、日本における新自由主義「改革」への反撃が始まった年として記録されることになるだろう。

新自由主義への反撃の中で最も注目したいのが非正規労働運動である。昨年12月、東京・京阪神・福岡で活動するフリーター労組活動家を招き座談会を開催した。20名を超える参加者による5時間にわたる座談会だったが、驚くほど問題意識は重なり合い、経験交流を超えて、新たな社会運動の誕生を確信させる希望にあふれた討論となった。3部構成の座談会のテーマは、左表のとおり。第1部で、フリーターユニオンの成立過程・活動内容を示し、第2部で、若者の引きこもりやうつの問題を労働運動の側からどう捉えているのかという議論を行った。これは、従来の労働運動を超える特長と言えるだろう。第3部は、過酷な賃労働を越える、新たな働き方の模索である。（編集部・山田）

フリーター労組活動家座談会

2007年12月17日（月）、人民新聞社編集部にて

第1部 新たな社会運動としてのフリーターユニオン （今号掲載）
ユニオンの立ち上がり、その戦略・戦術
第2部 過酷な労働 （次号掲載）
「そもそも賃労働に入っていけない」＝賃労働の前の問題
第3部 もう一つの働き方 （次々号掲載）
フリーターズフリーの試み・ワークシェアリング

●参加者（敬称略）
梶屋大輔 （フリーター全般労組、グッドウィルユニオン）
鈴木 剛 （フリーター全般労組）
千々岩 （フリーター全般労組）
栗田隆子 （フリーターズフリー）
生田武志 （フリーターズフリー、野宿者ネットワーク）
ちろる （日雇い派遣フリーター、山谷・隅田川支援）
盛岡伸吾 （反戦と生活のための表現解放行動）
中村 研 （ユニオンぼちぼち）
橋口昌治 （ユニオンぼちぼち）
小野俊彦 （フリーターユニオン福岡）
中桐康介 （釜ヶ崎パトロールの会）
司会： 山田洋一（人民新聞社）
コメンテーター： 酒井隆史（大阪府立大学人間社会学部。著書に『暴力の哲学』〔河出書房新社、2004〕、『自由論』〔青土社、2001〕など。『vol』〔以文社〕編集委員）

山田…フリーターの労働組合が注目を集めています。二〇〇八年以降、そうした若い労働者の運動が既存の労組とは違う社会運動として発展していく期待があります。各地の特徴に根ざして特色ある運動を展開されているフリーター労組の運動とはどういうものか？お互いの経験を重ね合って、それぞれの運動をいっそう豊富化させることの一助となれたらと思います。

まず、各地のフリーターのユニオンの成り立ちからおうかがいしたいと思います。

既存のユニオンと異なる成り立ち

橋口（ユニオンぼちぼち）…京都・大阪の学生運動・社会運動のつながりで「労働運動をやる必要がある」という話が出てきたのが、二〇〇四年一

地殻変動が起きている。日本では消滅の恐れのある限界集落が2400あるという。しかし限界に来ているのは村ではなく、町なのだ。例えば、限界集落からさらに山道を登った山間地の村に、有機農業をやりたい若い3組のカップルが移り住み、ベビーラッシュとなっている。この集落は3人に1人が30歳以下だという▼持続不可能な商工業文明の限界を感じ取った若者が、極北の地といえる場所で、農的くらしへと向かっている。そこでは農と食と環境そして生命を本気で見つめる農業の作法が必要だし、そのことを教える人が必要である。有機農業推進法はそのための法律として活用したい▼環境破壊的な農業文明を反省的に捉え返し、世界中に有機農業を核とした環境保全型農業を実現したい。自給経済の再評価と抵抗拠点としての地域がそれを導くだろう▼そのためには、持続可能な農業への支援を最優先にする工業を実現すること、持続可能な農業を支えうる商業システムを実現することである。これら農的工業、農的商業を統合しうる農業文明から農的文明へのパラダイムの転換が求められ、そこでは農・商・工業での労働の質と普遍性が問われるだろう。それぞれの場で時代を創り出そう。（I）

ぷりずむ

「諸行無常」「盛者必衰」「奢れる者久しからず」、好きな言葉の一つである。ただし、その真実は人の一生という時間の中での話ではないのであろうから、生身の一人としては、傍観的な解脱した心境にはなれそうもない▼根っこを揺さぶる大きな変化は50年単位、修正を迫る変化は10年単位におこる。そんな歴史の時間感覚なのだが、資本主義的な仕組みをも侵食していく領域（人の生命・精神まで侵食されている今）がもうこれ以上何処にあるのか、という程余地がなくなり、多くの人にとっては「魅力のない苦痛のみの仕組み」に変わりつつある。資本主義が生まれて400年余りになるが、限界に来ていることに変わりはない。ロシア・中国の試みは根本的な変化を求める「途中での失敗の試み」と位置付けられるべき事柄だと考える▼強権による支配の維持が目立つようになってきたのも「弱ってきた」現れではと思う▼そんなことで、今年も足掻き、少しでも遠い先を視る努力をしながら、目先の様々な事柄に抵抗していく元気を持続できれば、私的には良き哉である。（S）

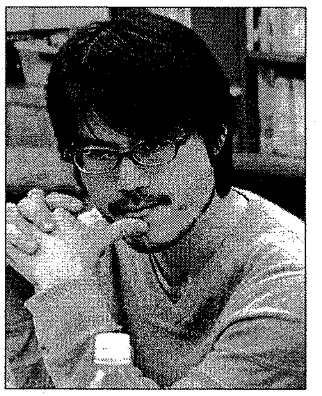
昨年から『派遣』をめぐる論議が沸き起こっている。特に「日雇い派遣」は最悪で、労働組合も力を入れ始めた。一部は「日雇い廃止」を言い出している。全ての人の正社員・常用化に反対する。正社員化で安定はするが、縛りも増える。今の日本の正社員は「管理労働」である。日雇いは安定はないが、自由がある。私はそうして35年間、日雇いで働いてきた。そうした私のような存在は許されないのか▼同一労働・同一賃金、との主張はあるが、日雇いには各種厚生保障や退職金がない分だけ、日々の賃金に加算されるべきだ。また、健康保険や失業保険も、先輩たちの勝ちとってきた、日雇い健康保険、失業保険の制度がある。仕事のない時の保障を含めて、今の日本の平均賃金を考慮すると時給1500円でも安いぐらいだ▼ヨーロッパでは、雇用形態での格差に反対し、短時間労働や、日雇い労働でも、年間賃金で要求が出されている。パート・派遣の要求は、時給1500円、健保・失保適用というのが最大要求となるべきだ▼安定した奴隷＝正社員と、不安定な自由派遣労働者のどちらを選ぶかは本人の自由であるべきだ。（A）

昨年7月の参議院選挙で安倍政権は自壊し、代わった福田政権はC型肝炎訴訟の和解処理の支持率低下で動揺している。これは日本政治のミクロ現象にすぎないが、マクロ的にはグローバリゼーション政策では人類社会も自然環境も持続できない世界の危機が迫っている▼その意味で、自民大敗も自・公政権崩壊も必然的結果であって、選挙結果も世論動向も一過性の浄化現象に終わりかねない。といっても政治的にも社会的にも、閉塞状態であって決め手が見えない▼言うならば、「自民」と「民主」の「保守連合」の主導権争いなのであって、「公明」との連立が「弱者」取り込みのキィーワードなのである。いまの「民主」中軸の野党連合といっても「保守連合」の切り崩しにあえば「政界再編」に耐えられない▼われわれの対抗力とは、「弱者」の闘争力を軸としたあらゆる政治的、社会的勢力の結集による「政治連合」しかない。声なき声が選挙や世論を動かさなければ政治は変わらない▼選挙と世論調査がこれ程までに政党と内閣を直撃する時代は、新時代の到来に間違いない。「弱者」のエネルギーと直接的「政治連合」の結集こそ未来を切り拓く。（F）

【新年特集】フリーター運動座談会
新自由主義に風穴を開け 資本主義を越えていく

福岡

小野俊彦さん



フリーターユニオンふくおか（フリーター／非正規雇用労働者ユニオンふくおか＝ｆｕｆ）執行委員長。塾講師その他アルバイト。

2006年、イラク反戦や市民運動を通じて知り合った仲間とともにｆｕｆを結成。先鋭な主張とサウンドデモのインパクトなどで九州のゴロツキを魅了。失業者や、労働意欲自体がない者も問題意識を共有していれば組合員として受入れ、現在の社会状況において、労働運動・労働組合として何ができるかを議論しながら摸索している。

争議を通じて、「労働者性」自体がさまざまなせめぎ合いの舞台となることを痛感。資本性国家と社会に対する闘いとして、狭い意味での「労働者性」を超える連帯を呼びかける。フリーター、ニート、ヒキコモリ…。レッテル貼りの意味を反転させ、社会を変える力として爆発的に表現することが最大の目標ではないかと言う。「「生きづらさ」というある種曖昧な、かたちのない声は、やはり制度の外、「路上」で剝き出しに炸裂することが重要だ」

自身の雇い止めに対する闘いが佳境を迎えている（人民新聞1998号）。

イラク反戦から労組運動へ

二月です。京都で市民社会フォーラム（京都社会フォーラム：世界社会フォーラムの京都版をめざした）が開催された頃でした。後にぽちぽちを結成するメンバーも京都社会フォーラムに関わっていたのですが、そのなかで若者の労働運動をという話が出ていました。企画をもちながらぽちぽち準備しようという方向性でした。

二〇〇五年の春に「ユニオン準備会・ぽちぽち」が「生活や仕事で困ったことはないか？助け合えることはないか？一緒に話し合おう」という場を開きました。これが、『ぽちぽちトークカフェ』です。若者の仕事の問題について話すと同時に、労働法について学習する場でした。

組合結成は、その年の一一月。初代委員長になる中村研が、バイト先のコンビニを突然解雇されたことが直接のきっかけです。その日にユニオン準備会のメンバーが喫茶店に集まって、「結成大会」を開きました。

小野（フリーターユニオンふくおか）…立ち上げの時にお世話になったのは北九州市の教職員の組合（北九州がっこうユニオン・うい）の方などです。福岡の地域労組などからも助言を受けました。現在も北九州の地域合同労組と緩やかに繋がっており、団交や争議、大会に呼ばれて、参加することもあります。

山田…既存の労働組合と違う成立過程とは？

QT（フリーター全般労組）…労働問題というよりは反戦運動から出てますね。街頭での反戦デモなどで初めて運動に来た人たちと、もう少し上の世代で、一〇年くらい沈没してて、反戦デモで再び活気が出てきちゃった層とがミックスしてですね。

大学での運動はかなり厳しい状態ですから、いきなりストリートに出てきた若い人と、これに野宿の仲間の支援運動や、いろんな表現活動であったり、NPOで活動してたり。様々な人がいたんですが、なぜか労働運動だけやってなかったんです。そういう活動を持ち込みながら、「労働運動やってみる意味があるんじゃねえか」っていうことではじめた。その面では、既存の運動とはモチベーションや経過がだいぶ違います。

中桐（釜ヶ崎パトロールの会）…フリーター全般労組（F労）は二〇〇六年頃に方針転換しましたよね。それまでは労働相談を受けて対応するという典型的な労働組合運動ではなく、もっぱら街頭行動や言論活動をやっていたようですが。

QT・鈴木…そうです。それまで「労働組合をネタに学生運動をやりたい」という、やや趣味者的な（笑）運動でした。〇四年五月にメーデーをやって、F労の立ち上げはその四年の八月。で、翌年から『自由と生存のメーデー』と名付けて今も継続しています。F労が呼びかける実行委形式です。

反戦・表現活動…多様なエッセンスを持ち寄って

QT…〇六年の五月にサウンドデモの弾圧があって三人の仲間が逮捕されたのが転換のきっかけになりました。その救援を反戦グループ・野宿者支援の仲間など、いろんな仲間が集まってやりました。ところが弾圧の余波で、F労も三～四人になってしまったのです。三年続けてきた『自由と生存のメーデー』が途絶えてしまう危機でした。

その頃、プレカリティとか労働の問題が話題になってた時期で、メーデーの集会でシンポジウムをやったんですよ（自由と生存のメーデー06―『プレカリアートの企みのために』発題者 入江公康（社会学・労働運動史）、海妻径子（インパクション編集委員）、安部誠（全国コミュニティ・ユニオン連合会 全国委員））。

そこで、これはやっぱり労働問題を扱わないといけないし、フリーター労組をきちっと立ち上げていこうという話になったんです。集まった連中が安部さんたちにハッパかけられて、「団交どのぐらいやってんの」とか聞かれて、「あ、やってません」「バカヤロー」「じゃあ、やりますよ」…これに近い（笑）。

中桐…相談活動はどのように始めましたか？

QT…まずはオーソドックスにビラまきからでした。「あかね」っていう早稲田にある交流イベントスペースを事務所にして、メーデー映像の上映会や茶話会をやって、一〇人くらい「やるか」って奴が集まったのが夏頃。

梶屋（フリーター全般労組・グッドウィルユニオン）…僕は、雨宮処凜さんに出会って労働運動に目覚めたのですが、弾圧のやり返しデモ（〇六年八月、『弾圧を許すな プレカリアート@アキバ～やられたままで黙ってはいないサウンドデモ→集会』）で初めてデモに参加してF労に加わりました。F労が動き出したのも九月か一〇月でしたよね。

QT…そう。だから一年ちょっとですね。東京管理職ユニオンなどが入っているオフィスを間借りして、「一年で組合員が一〇〇人にならなかったら追い出すからね」って言われました（笑）。

以降は管理職ユニオンなどとの合同ホットラインで相談を受けて、特に、日雇い派遣問題が大きくなった時に、「日雇い派遣ホットライン」を二四時間ぶっ通しでやったら二〇〇本くらい相談が来た（一〇月二八日～、「偽装請負ホットライン」主催・全国コミュニティ・ユニオン連合会）。「今から開始します」っていうのもテレビが入って、「電話番号はこっちです」というテロップも入った。そしたらドワーっと来ました。

メーデーの弾圧についても珍しくメディアが来て、東京新聞が大きく取り扱いました。その頃からフリーター労組の存在が知られ始めて、さらに、ホワイトカラーエグゼンプションの闘いに関わって注目されました。

フリーターの労組がこの問題をやるってのは珍しかったんですよ。「あれはホワイトカラーの問題だから、関係ないんじゃねえの」って言われたけど、「関係ある」って言い張って。

そのときまたパフォーマンス行動を繰り返した。新橋とか秋葉原とかをコスプレで。「仕事の後の一杯がピンハネされますよ」ってやったらけっこう効いたんです。日経新聞の論説に「あやしげな労働団体が間違った情報を流したことで世論が悪くなった」と書いてあったんで、「勝った！」って思いました。

中桐…福岡では定期的に街頭情宣やってますよね（毎月第二・四金曜日に天神コア前で街頭アピール）。街頭での手応えはどうですか？

小野…全くないですね。ビラ見て電話ってのは、ほとんどないですね。雨宮処凜さんのイベント（〇七年五月一九日『五月病祭（まつり）』）の時に、相談が来ましたけど。やっぱりホットライン（電話相談）が大きいようですね。QTさんのF労の話は参考になりました。

自分のことで社会運動をやりたい

中桐…ｆｕｆの立ち上げの時の流れは？

小野…QT・鈴木さんの話にもありましたが、イラク反戦がきっかけだったのは全く同じですね。そこで若い同世代の人たちと出会ったんです。彼らと話してた時に、既存の市民運動とか反戦平和に対して「なんか違うな」という違和感が共通して出てきた。

そんな中でフリーター全般労組の動きなどをインターネットで見ながら「こういう労働運動をやりたい」という話が出て、「やろう」と動き始めました。

当初はF労の福岡支部を作ろうと思ってメールを送ったんですけど、全然返事が来なかったんです。だから、「もういいや」と思ってｆｕｆを立ち上げたんです（笑）。

QT…それがよかったんだよ。

山田…反戦運動がなぜ労働運動につながっていったんですか？

小野…それはやや抽象的な問題意識かもしれないですけど、反戦平和系の運動がどこが戦争を「外にある問題」として扱っていることに対する違和感がありました。

「外」にある問題について何か言っていくっていうのではなくて、自分の生存・労働という、日々の何かを決定しているものに対して何かを言っていくという方向転換をしたいと、漠然と思っていたんです。

決定的なきっかけがあったかと聞かれても、それはわからないけど、一つには、自分のことで社会運動をやりたかったってことですね。

【新年特集】フリーター運動座談会
新自由主義に風穴を開け 資本主義を越えていく

それと、大学院生を長いことやっていて、実際ラチあかない現実も見えてきました。周りを見てても全然就職が決まらないし。

乱暴な言い方をすると、つまんない研究してる人が業績をコツコツかせいでようやく何かなってるという状況です。批判的な意識を持った研究をやろうとすればするほど、どんどん大学の制度の中では居場所がなくなるような感覚は否めなかった。所属している研究科の中で学生運動を組織しようとしたんですけど、周りの学生は誰も振り向かないという状況もありました。今更ながら、「大学にはなんの展望ないな」と見切りをつけるような感覚にもなって…。

自分自身が大学院生として「どうしようもないな、このままじゃ」という状況と、先の反戦運動への違和感がシンクロ(同調)していって、「自分はとりあえず大学の外で、できることをやろう」という感じだったですね。

フリーターは殺されても構わないのか？

QT・鈴木…東京で似た話で、ちょっとエポックになったイベントがありました。〇五年の八月一五日の『靖国解体企画』という行動です(人民新聞一二二〇号)。このときに小泉の参拝という、戦後画期的な事件があって、「戦時下の『靖国・フリーター・戦場死』を問う」というシンポジウムをやった。

これは、香田証生君の死について、左派の人も彼を批判してた論調があったんです。要するに「何もわかんない日本のガキが、第三世界の厳しいところにふらふら行って、殺されて当然でしょ」みたいな意見。これに対する激しい違和感と、小泉が参拝に来ることと、いわゆる「イラク反戦」が後退局面にあったこと。

後退への焦りと、これらの事件を合わせて、その問題を「フリーターでふらふらして、殺されたらいいのか？」と打ち出したんです。ちょうどプロのジャーナリストが殺されると「彼は本懐を遂げた」とされた。これはおかしいんじゃないか、と。

フリーター青年が見捨てられ、生の序列化が図られようとしていると。これは我々の生存とか、いまの生きているよすがなき社会はどうなのか？と問うイベントをやった。これがフリーター問題の前史になっていた気がします。

自身の厳しい生活 自分自身の表現で

中桐（釜パト）…京都の『反戦生活』が前身の団体（反戦・反政府行動）から衣替えする過程では、どういう論議があったんですか？

盛岡（反戦と生活のための表現解放行動）…まず名前が恥ずかしかったのと、もう一つは、「イラク戦争に反対」って言うだけじゃダメだろうという話があった時に、象徴的な意見が出たんです。それが地デジ問題です。あれでテレビを買い換えないと、テレビも観れなくなる。でもその金もない…。

QT…二〇一一年問題だよね。

盛岡…そうそう。こういう自分たちの現実に目を向けることも大事じゃないかという意見が出て、そういう内容も含められるような名前ってんで「生活」っていうのが出てきたんです。

盛岡…テレビを買う金もない自分たちの厳しさが浮き出てきた。

それと、僕らはもともと、教育基本法改悪の問題とか、戦争反対、野宿者支援も含めて色々やってたんですよね。「それらも含めて捉えないかんな」っていう議論にもなって、それを、どう言葉にしたらいいのか？で、「生活」だと。

橋口（ユニオンぼちぼち）…「表現解放」ってところが面白い。いっしょに街頭行動に参加してますが、歩いてて面白い。何で「表現解放」かっていうと、イラク反戦が盛り上がって「よしっ」っていう部分と、一方で、いわゆる「市民的」なデモの中で「なんか居心地悪い」という感覚があって、自分たちの表現を警察に対しても反戦運動に対しても解放したいっていう意味です。

「反戦」と「生活」と「表現解放」と三つ並んでるのが特徴

京都

橋口昌治さん

ユニオンぼちぼち（関西非正規等労働組合）書記長。立命大学院生。主に大学内でアルバイト。

学部生のころは大学の統治／管理機構に反発を覚えつつも、学生として授業や施設をよくできれば、と協力的・改善的な姿勢で自治会活動に関わってきた。しかし、自身が院生になって、多くの院生にとって大学は現在の、そして将来の職場であるという現実に触れ、大学の非合理なまでの「経営」偏重に危機感を覚える。またゼネラルユニオンで非常勤職員の待遇改善に取り組む遠藤礼子さんの運動にも触発され、大学が女性や高齢者を中心とした非正規労働者を活用して「経営がうまくいっている」というのはどうかと思うようになり、「ユニオンぼちぼち立命館分会」結成に関わった。

ユニオンぼちぼちの書記長をしながら、「若者の労働（組合）運動」の研究に従事。研究者としては現在の若者の労働運動の特徴を把握し、またその結果を組合員として運動に生かせれば、と考えている。

今後の運動課題については次のように語る。「今は社会問題としては広がっているけど、まだまだメディアの中の話でしかない。例えば友人で、労働者の権利を知っていても、それを使って労働条件を改善できるというリアリティを持っていない人が多い。多くの人に権利のリアリティを持ってもらうことが必要だ」

●時評● ●短評● ●私の直言●

「表現の自由」や本そのものにこだわりのない出版界

いいかげんな出版業界に未来はあるのか？

有機本業　発行人　五味正彦

出版(業)界はこれからどうなっていくのだろうか？

新宿のミニコミ書店、模索舎をだいたい一七年、その後、出版のオルタナティブな流通業・有機本屋＝ほんコミ社、こちらも一七年程やって、二〇〇五年三月、めでたく〝引退〟でき、その後も大きなトラブルもなく、好きなことがよりやれるようになって、二〇〇八年が迎えられ、ありがたいことと、関係者皆さんに感謝している。

小さな〝会社・組織〟の運営（人・金の管理の大変さ）にも、ずっと仕事の主な対象だった出版業界にも、ほとほとあいそをつかしきってのリタイア、だから、もう出版界・出販業界・あるいは表現の自由のことなんか考えなくてすむ、とほっとしていた。

しかし、昨年秋からこんな私にも、「今後の出版界はどうなるのでしょう」的質問が又ふえてきた。又というのは、今までもこんな質問が多かった時期が二度程あったからだ。

一度目は一九九〇年代はじめ、世の中にちょっと遅れて出版バブルもはじけた時、二度目は二〇〇〇年代になって、どうやっても「売上が前年以下になるしかなくなって」ということが続くようになって、ではあった。

今後も出版という仕事は続くのだろうか？自分はこの会社にいて大丈夫だろうか？数年後自分が経営している出版社は残っていられるのだろうか？残るための秘策はあるのだろうか？というたぐいのものが多かった。

同じような質問が続けば、こちらも真剣に答えを考えざるを得なかった。九〇年代はじめの時の答えは二つ。一つは「岩波をはじめとする出版社側の取り分減らして、書店で働いてる人の労賃を挙げること」――だって本のことを質問しても答えられる現場のスタッフが管理職になるか、あまりの低賃金（マクドナルドより平均時給で本屋の方が五〇円以上低かった）でやめるしかないというのが書店現場だった。

もう一つは「文化としての出版でなくても商品としての出版物をふやす秘策はある。それは〝自費出版〟に〝流通してます〟というラベルを貼って商品化すること。そのための方法論はね、とむにゃむにゃとある出版社の新しいプロジェクトの責任者と称する人に自論をしゃべったことがある。いろんな人にしゃべったが、名刺が残っている一人は、「たま出版・某、文芸社プロジェクト」。

そう、今新風舎と並ぶ文芸社という自費出版、商品化会社の一つ、文芸社の母体は〝たま出版〟。時々テレビに出てUFOがどうのこうの言ってる韮澤潤一郎という人は確かこのたま出版の経営人にいたと記憶している。

今回の紙数は終わりつつあるが、多くの皆さん、自分の本を出したいと言う出版界は、こんないいかげんなダメな業界。それでも興味持つ人いれば続編書きますよ。「ないと50くん」、告発ネタを書くんなら自分をさらさなきゃダメだよ。私は多くの人が知ってる本名です。

そして今日的状況の出版界の一つの象徴的できごととして、地方小出版流通センターの直営書店「アクセス」が昨年暮れ閉店した。その今の想いが沢山つまった記念出版がされた。『書肆アクセスという本屋があった』（右文書院発売）。私も一文程しています。

何とこれを書いた直後、文芸社と並ぶ自費出版社・新風舎と草思社がつぶれた。まだ続々ありますよ。

【新年特集】フリーター運動座談会

新自由主義に風穴を開け資本主義を越えていく

だと思ってます。

QT…表現ってことで言えば、石垣カフェ（人民新聞一二二〇号）はしびれましたね。福岡のサウンドデモもそうですがね、「やられたー」とか言って、「ああいうのを、またやろう」と。

あれに発想を受けて「引きこもりカー」ってのやりましてね。台車にブルーシートと板を打ち付けて、乗って歩いた。執行委員のSくんが警察から追及をされて「君ぃ、ダメだよ、人間が乗ったら」って弾圧されて、「君ぃ、荷物じゃないだろ」「いや、荷物です。社会のお荷物です！」。アドリブだったんですけどね。あれでみんなノッちゃって盛り上がりました。

「文化的閉塞性」に対置する三つの柱

西村（元日雇い港湾労働者・飛び入り参加）…警察についてだけど、私が日雇いの労働組合をやってた頃は、九五％くらいが「労働・生活相談」。みなさんからみたらものすごく「レベルが低い」。警察に何べんも行った。西成署で刑事と二人で「どうしましょ、どうしましょ」と相談したり、組合員が北海道で自殺しようとした時も、北海道警と相談しながら後始末した。警察とは仲良くしないと運動ができなかった。警察とドンパチケンカするだけじゃ運動は進みません。

「日雇い」から相談を受けるんだから、もう少し「低レベル」の話から始めていかなあかんっていうことを、私は感じてきた。

中桐…フリーター全般労組の山口（素明）さんが「文化的閉塞性」ってことを言ってます。若い労働者の生活は、パチンコとパチンコ屋の前にあるキャッシュディスペンサーとの往復で、新聞も読まないし情報アクセスもない、という人がものすごく多いと。そんな実情に、組合としてどう対応したらいいのかということです。出会っていく機会がそもそもないような人たちと、どうやっていくか、が大きな課題の一つである、ということを言ってました。

QT・鈴木…ぼくらは労組として三つの柱を立てています。

一つは、基礎としての労働相談で、きちっと解決する、ピンハネ含めて取り返していく。その相談のための間口は街頭のビラまきやネットで確保する。あとホットラインってのもありますね。

二つめの柱は、「文化」というか「生活」というのも含めた言論活動です。自己責任論と対決して、連帯的なものを対置する活動。これは、サウンドデモみたいに単純に楽しいってのもありつつ、やっぱり対抗する文化を創ることです。シンポジウムもそうですね。

三番目にいわゆる「もう一つの働き方」みたいなことを対置しようとしています。ベーシックインカムのような制度的なものも含めてです。

この三つを方針としています。このような柱がないと、回路が広がらない。合同労組で多いのが「解決したらサヨナラ」ってケースですしね。やっぱり仲間になってこんどは誰かを助けるとか、いっしょに歩むっていう形なり仕掛けが必要です。

自己責任論と対決し、連帯を対置

中桐…相談の中身はどうですか？入り口は労働相談でも、いわゆるクレサラ問題（クレジット・サラ金などによる多重債務などの問題）や家族との関係など、生活全般に関わる問題があるんじゃないですか。

QT…こじれアリまくりですよ。労組でできることには限りがあるので、湯浅くんたちの『もやい』に紹介するとか、そういう領域でがんばっている人たちに相談しています。実際に、企業との交渉に入る前に解決しなければならない心の問題もあります。

「話を聞いて欲しい」っていう人も多いですよね。

梶屋…しゃべりたくてかけてくる人も多いですね。

資本主義の本質と対峙する生存組合

山田…東京では三つの柱を立ててってやっているようですが、京都や福岡ではどうですか。

小野…ぼくたちは一応「労働／生存組合」と言ってますが、生存組合としてシステム化は、まだです。

ぼくらも、『もやい』とかホームレス支援の団体と連携がとれたら一番いいんですけど。僕らのやった案件の一つで、ホームレス支援のNPOの職員が、ほんのちょっと給料上げてくれないかと要求したら、解雇された事件があったんです。そのNPOとは切れてしまいました。

もちろんつながるべきなのですが、一方でNPOやホームレス支援をやっている彼らの意識はどうなんだろうかと。ある種の「弱者救済」的な側面が強すぎるのではないか、と思ってしまいます。職員の雇用を軽々しく考えている組織が、なぜホームレス支援ができるのかということを、相当議論しました。

NPOとか「別の働き方」という発想と、労働運動ができることとは、違うと思います。並行してやれるのでしょうが、発想の違うところもある。極端に言うと、「労使対立の問題を純化して考えていくと、別の働き方とかオルタナティブなんて、この資本主義社会の中でできるもんじゃないだろう」――みたいなところです。

fufとしては「生存」＝まさに労働以前の問題を打ち出しています。生活そのものが厳しいっていうレベルと、心の問題ですね。心の問題を抱えている組合員も多いし。そんな組合員が結果的に辞めざるを得なくなったんですが、うまく対応できなかったこともありました。

当該労働者が力をつける組織の立て方

山田…組合費や専従を支える体制はどうですか？

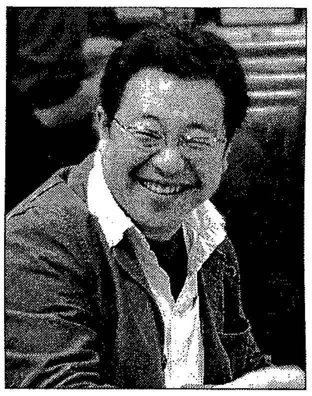
梶屋…専従はいないです。執行委員は一三名。その内、交渉を実際にやっている人たちは六名位ですね。

QT…参加する人が増え始めているから、交渉員は一〇名くらい。自分で解決まで持って行ける人が五～六人で、サブで付いてもらう形で。

専従については論議があって、専従が必要という意見もある一方で、専従なしで

東京

QTこと鈴木剛さん



フリーター全般労組執行委員、ワーカーズコープ理事。

早稲田大学在学中から学生運動に参加。卒業後、テレビ報道番組の制作会社を経て、「働く人たち自身が出資し、対等な立場で経営にあたる」ワーカーズコープの設立に関わる。

裏の顔は「テロリストは誰？九条の会」に参加し、靖国解体企画やACA（反資本主義行動）などの直接行動派ともつきあう。イラク反戦以降、フリーター全般労組に合流。

「私たち市民が『もう一つの働き方、生き方』を知り、主体的に新しい公共性を担っていくこと。それこそが『格差社会』を克服する方法だ。ワーカーズコープの実践は、現在の構造改革でいわれる『官から民へ』という選択肢を超え、『営利化から市民主体の社会化へ』という、もう一つの構造改革の在り方を指し示す。」（中日新聞）

謹賀新年　今年も共に頑張りましょう！

一人でも誰でも加入できます
リストラ・解雇・職場いじめなどの労働相談
管理職ユニオン・関西
大阪市北区東天満二―二―五 第二新興ビル六〇五
電　話（〇六）六八八一―〇七八一
FAX（〇六）六八八一―〇七八二
http://www.mu-kansai.or.jp
京都滋賀地区事務所
℡（〇七五）三五三―四三三四

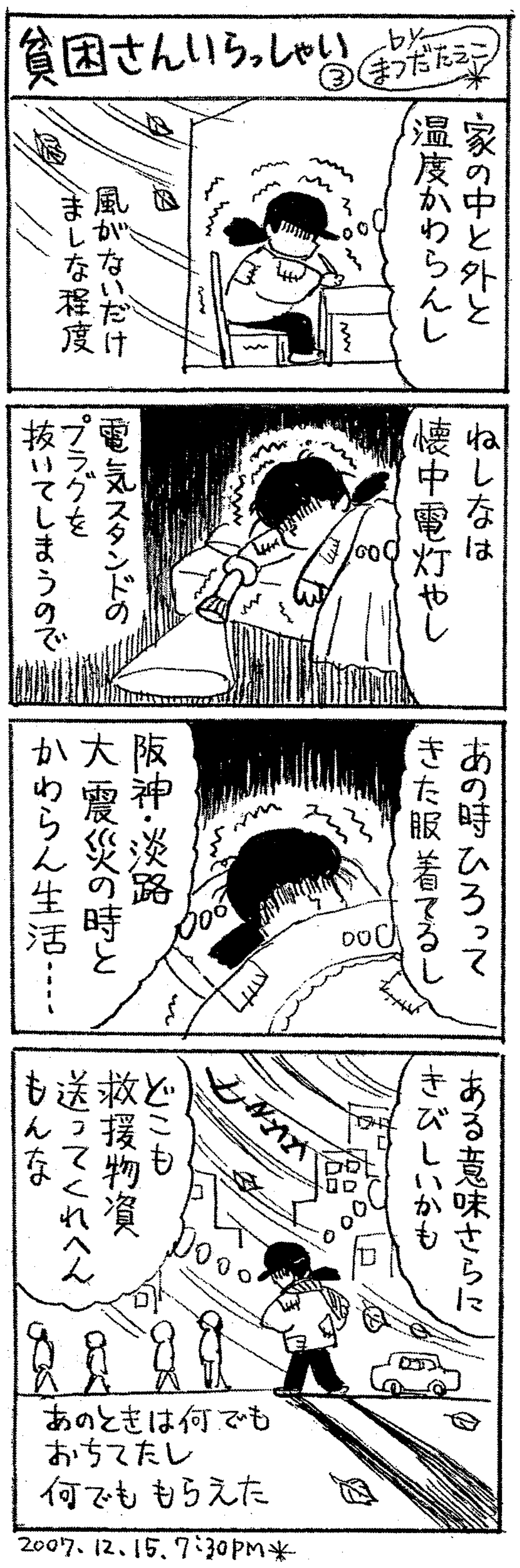
「市場経済」とは異なる生産・流通・消費の新たな仕組みを自分たちの足元から
関西よつ葉連絡会
〒567-0827 大阪府茨木市稲葉町四―五―四F
電　話（〇七二）六三〇―五六一〇
FAX（〇七二）六三〇―五六〇六

働く者の生活と権利は働く者の力で守ろう！
北大阪合同労働組合
豊中市岡上の町二丁目五―二八―二F
電　話（〇六）六八四六―八三〇二
E-mail kitagodo@x.age.ne.jp
大阪府高槻市野見町四―三九
電　話（〇七二）六七五―一九九九
E-mail kitagoudu@cream.plala.or.jp

能勢農場
大阪府豊能郡能勢町山辺一七三―二
電　話（〇七二七）三四―一七九七

生き、闘い抜き、社会主義へ。
自主日本の会
代表　**塩見孝也**
事務所　〒204-0011 清瀬市下清戸四―四一九―一四
電　話（〇四二）四九一―九七四四
FAX（〇四二）四九一―九七四四
E-mail GZB02225@nifty.com

人民戦線の旗のもとに！
日本人民戦線・議長
平岡恵子
東京都墨田区太平一―二三―五―四〇一
電　話（〇三）三六二三―四〇一一



京都

盛岡伸吾さん

反戦と生活のための表現解放行動（反戦生活）、均等待遇アクション21京都。

京都精華大学在学中に、「社会科学研究会」として反戦運動や釜ヶ崎・野宿者支援運動などに参加。

ペイ・エクイティ（同一価値労働同一賃金）の実践講座をまとめたハンドブック『職務評価して均等待遇を実現しよう！』が好評。300円にて頒布中。問い合わせ＝均等待遇アクション21京都（Tel: 0774-43-8734 Fax: 0774-44-3102 E-mail: k21kyoto @ yahoo. co. jp）

【新年特集】フリーター運動座談会

新自由主義に風穴を開け 資本主義を越えていく

専従なしでどこまでやれるか？試したい

どこまでやれるか追及したいメンバーもいます。

梶屋…専従に業務が集中したり、意識の溝ができたり。

QT…専従に頼ってしまう危惧もある。

山田…代行主義に陥らないためでしょうか？

QT…そうですね。そういう積極的な意味と、現実問題として金がない。

橋口…首都圏青年ユニオンは専従を置いて飛躍的に組合員数が伸びたので、そのメリットはあるかな。

QT…相談を受ける体制を作るという意味では、「専従を置くのがオーソドックスだろ」って意見は当然ありますよ。

それと、組合を支える体制として、賛助会員という仕組みも作っています。メールマガジンもがんばって続けて、いま五〇〇アカウント位の読者がいます。「オールニートニッポン」（インターネットラジオ）のリスナーも五〇〇〇人。

中村（ユニオンぼちぼち）…ぼくは「ユニオンひごろ」の専従ですが、「ひごろ」で受けた相談をぼちぼちに回していくのがぼくの仕事だと思っています。「相談を専従が一人で抱えるというとらえ方も、変えるべきだと思ってます。

小野…首都圏青年ユニオンが、企業に要望書を出すときに「自分でFAXのボタンを押してもらう」って書いてたけど、あれってすごく重要ですよ。世界産業労働者組合（IWW、アメリカに本部を置く国際的な労働組合。すべての労働者は一つの組合の下に団結することと、賃労働の廃止を主張。一九〇五年の創設以来、激烈な運動を展開。当時、ナショナルセンターから排除されていた非熟練労働者や季節労働者、移民労働者らを受け入れた）もそういう発想です。当該労働者自身が問題意識とか知識をつけていくことを重視してます。

QT…フリーター全般労組では毎月、労働相談入門講座をやってます。

盛岡…相談を受けられるようにってこと？

QT…そう。加えて、自分の身を守るために。緑風出版から出版された本がテキストにいいですよ（『ひとりでも闘える労働組合読本　リストラ・解雇・倒産の対抗戦法』著：ミドルネット、緑風出版）。

山田…ぼちぼちはどう？

橋口…ぼちぼちは組合員が四〇名弱。うち立命館支部は七〜八人。立命館支部は立命館大学の院生と学部生で、アルバイトも含めて立命館に直接雇われている人の支部です。

なかまづくりの手段としては、『ぼちぼちトークカフェ』を定例化して、毎月みんなでご飯を作って食べています。この時、会議もします。これをやり始めて、新しい人が来るようにもなりました。これは首都圏青年ユニオンが会議の中でご飯を出すというのにヒントを得て、始めたものです。組合員全員が入るML（メーリングリスト）も青年ユニオンのアイデアです。

「居場所」としての労働組合

山田…F労の組合費は五〇〇円ですよね。

QT…これは激しい論争があったんですよ。最初は一律五〇〇円だったんですが、これじゃ活動費も出ない、ビラ代も出ないだろって指摘があって。今度は一律二〇〇〇円にしたんです。すると、辞めた人が出たんです。「高いよ」って。それで激しい論議の末、五〇〇円以上の所得傾斜方式にしています。

生田（フリーターズフリー・野宿者ネットワーク）…月五〇〇円でも無理だって人はいませんか？

QT…実はいるんですよ。それで、彼のおうちに行こうと。遊んだり食べたりしようと。そのひとは楽器が得意なんで、彼にライブをやってもらってギャラを払って、そっから組合費を払ってもらおうかと（笑）。

生田…首都圏青年ユニオンの河添さんから、五〇〇円も払えない人がいてすごく悩んだって話を聞きました。それで最近できたのが、「反貧困助け合いネットワーク」。やっぱり、とことん収入がなくなると、一〇〇円でも厳しいって人がいるんですよ。我々は野宿者支援で、月収三万円以下の人とやってるわけですから、月一〇〇円出すのがしんどい人がいるんです。何ができるのかはいつも考えますね。

千々岩…組合費に代わるものとして、お金以外を考える方向はどうですか？物々交換じゃないけど。組合費だけじゃなくて、会社側への要求としてでも。ミカン三箱とか。

中桐…長居公園で炊き出しやる時に、「焚き木もってきて」って呼びかけたことがありました。

生田…最近農業を始めた人が、「金がないんで、野菜

謹賀新年　今年も共に頑張りましょう！

地域から協働社会を創造するため情報交流と理論作業に努めます
地域・アソシエーション研究所
〒567-0827 茨木市稲葉町四—五 三階
電話（〇七二）六三〇—五六〇七
FAX（〇七二）六三〇—五六七三
E-mail : local-associa@group.email.ne.jp

コンピューター何でも屋
クリエイト大阪㈱
森下雅喜
〒567-0827 大阪府茨木市稲葉町四—五—三F
電話（〇七二）六三〇—六一三五
FAX（〇七二）六三〇—六一三四
http://www.kita-osaka.co.jp/~create

一水会
代表 木村三浩
〒161-0033 東京都新宿区下落合一—二—一五 第二三鈴木総合ビル二階
電話（〇三）三三六四—二〇一五
FAX（〇三）三三六五—七一三〇

能勢町議会議員
八木修
大阪府能勢町森上一五五—九
電話（〇七二）七三四—三五一六
Email igaguri@poporo.ne.jp

帰国者の裁判を考える会
機関紙「ザ・パスポート」
【連絡・購読申込】
東京都港区新橋二—八—一六
新橋石田ビル四F救援連絡センター気付
E-mail sper@tky2.3web.ne.jp

政治を市民の手に取り戻そう！
豊中市議会議員
木村真
大阪府豊中市岡上の町二—五—二八—二F
電話（〇六）六八四六—八三五八
FAX（〇六）六八四六—八三〇三
E-mail k-makoto@wave.plala.or.jp

【新年特集】フリーター運動座談会

新自由主義に風穴を開け資本主義を越えていく

で」っていう人もいました。

QT…そこは広げないといけないですね。「いられる場所」という意味もあるんでね。

橋口…居場所として広げていくことは重要ですよね。

小野…それは大事ですね。ぼくらも定期的にいっしょに飯食ったり。ミニイベントを入れたりしてる。場を開いていって誰か来るかっていうと、そんなこともないけどね。

中村…ぼちぼちで飯出してから会議に変化があります。これまでみんな腹減って会議してるとイライラして、わけわからんところで口論になったりしてましたが、飯食いながら話してると、そういうのはなくなりました。

労働組合の限界と新たな可能性

QT…福岡のホームレス支援団体との争議の話がありましたけど、うちも同じような案件をかかえていました。ほんっと難しかった。一年位かかったんですけど、障がい者の自立運動を担ってた当該障がい者との交渉をやったんですよ。その人の自立を支える介護の事業所です。運営もワーカーズコレクティブ的なものをめざして、みんなで話し合ってやってたけども、みんながんばり過ぎちゃって。

やっぱり二四時間介護じゃないですか。その人の自立生活を維持するにはあまりに原資が足りない状態。これは自立支援法が悪い。

もうひとつは男性の当事者からのハラスメントの問題があって、それは言えなかったんですよね。「その人を支えないといけない」ってとこで我慢しちゃってて。去年の一二月三一日にうちの留守電に女性から泣き声が入ってたんですね。解決まで一年かかりました。一〇回目の労働委員会で当該の方も納得する形で和解になったけど、大変でしたね。

「NPOワーク」と「ケアワーク」

中村…労働運動の中で仕事づくりってのは、何十年も前からある話なんですけど、そこでの労働条件はとても厳しいですよね。

特にケアワーカーは大変です。自立支援法を壊すしかないっていう状態です。これは労使の対立ではなくて、いっしょにやらないといけない。当該の人との関係を良くしたいとか、思いをもっと聞きたいと思うほど、帰る時間が遅くなって、終電が過ぎちゃうとか、いつも聞いてます。

結局、労働組合の最終的な武器はストライキなんです。それをやらなかったら雇用主を黙らせられないわけですよ。ところが、「ストライキの間、当該はどうなるの?」って問題になるので、『ケアに関わる人は、ストはできない』という前提でやらないとダメだと思います。

小野…労働組合を通じて要求書を出すって段階で、人を使う立場の人間が「なぜ彼は、そうまでしなければならなかったのか」ってところに配慮できなかったら、もうその時点でダメですよ。

そういう形じゃなくても解決できる場合はあるはずなんですよ。それなのに、さっきの泣き寝入りの状況と同じで、個人で経営者に対してざっくばらんに話して解決することができなくて、悩んだ末に、相当な覚悟をもって労働組合を通して要求書を出すわけです。それに対して、人を使ってる側の人間が一定の覚悟をもって受け止めないと、こじれますね。

中村…だいたいNPOって人のつながりがあるんで、ぼくらユニオンが出る前に対話した方がいいんじゃないかというケースもありましたね。

盛岡…ユニオンに相談があったけども、NPOがユニオンをよく知っているので、逆に直接関係ない別のユニオンに話をまわすということも普通ですね。

QT…ある労組から「うちでは対応できないので」ってこっちにきたケースがあります。解雇案件なんですが、その関連の労組では扱えないと。それはきちっと割り切って解決しました。

資本主義になじまないケアワーク

「労働」として社会化する方法論

盛岡…ケアワーカーだと自分の労働を「労働として価値があるんだ」ってなかなかストレートに言えなくて、「人間としてやらなきゃいけない」という方に近いんです。ボランティア的なものに常に近づいているので、嫌なことを嫌だって言いにくい。峻別が難しい。しかも「プロ化していくのは嫌だ」というのも片方にありますから。

『均等京都』(均等待遇アクション21京都)でケアワーカーの職務評価をやるのは、自分の仕事は客観的に「こういう仕事をやってすごく価値があるのだ」っていうところに持っていきたいんですね。これからも事例を積み上げていこうと話してます。

中村…職務評価のもう一つ大事なところは、労使関係を「外に出して」いく方向性です。労使関係というと、どうしても職場内にとどまってしまうけれども、リビングウェッジとか、公契約条例とか、そういう条例化・法律化に向いていくっていうことですね。

日本の労働は昔も今も家族主義なんです。内々で全部まとめてしまう。労働組合もそういうところがあって、そこが労働組合の限界を感じるところです。就業規則が会社の中だけで決まってしまう。ヨーロッパだったら法律で決めて、ある程度はっきりしてるわけです。職務評価や均等待遇のようなものがもっと法律レベルで明文化されてないと、今は闘いにくいですね。

QT…公契約条例運動は、単に価格の安いところに仕事を出すって仕組みが主流ですけど、ちゃんと労働者に賃金払ってるかとか、女性や移民労働者を採用してるかとか、あるいは清掃の時に農薬とか有機リン酸系の合成洗剤使わないとか。いくつか法制度としてありますね。

(第一部終わり。以下次号)

大阪

中村 研さん

ユニオンぼちぼち副委員長。ユニオンひごろ(東部地域合同労組)専従スタッフ、派遣労働ネットワーク関西事務局。

大阪外語大学(現大阪大学外国語学部)在学中に、野宿者運動や反戦運動に参加。イラク反戦では、どの動員参加の隊列にも入ることができずに「その他。」とされる人々とともに、「イラク戦争と沖縄米軍基地に反対する有象無象」に参加。関西でのサウンドデモのさきがけを組織した。2005年、自身のコンビニでのアルバイトを解雇されたことを契機にユニオンぼちぼちを旗揚げ。

在関西の全労協系や全国ユニオン系など、労働組合関係者と広く関わりを持ち、その波にもまれながらも、「ぼくは労働運動のちょっと手前にいる」とオブラートに包みつつ違和感を隠さない。若者や非正規雇用労働者の独自の立場で積極的な発言を担う。

謹賀新年　今年も共に頑張りましょう!

安全で自然な食べ物を真心を添えてお届けします
㈱大阪産地直送センター
大阪市北区天満橋三―五―二八
電話(〇六)六三五四―〇八七七
FAX(〇六)六三五四―〇八七八
E-mail osaka@kita-osaka.co.jp

津田道夫

関西よつ葉連絡会
有限会社 阪神産地直送センター
代表取締役 中原恵一
〒660-0805 兵庫県尼崎市西長洲町一―六―七六
電話(〇六)四八六八―四三五〇
FAX(〇六)四八六八―四三五一

北摂反戦民主政治連盟

小河茂樹

宮崎学
http://www.miyazakimanabu.com

本当の連帯・和平の姿は援農作業の中に

占領とオリーブ

〇七年一一月六日　マハマド・ジャラド
（オルタナティブ・インフォメーション・センター）

いまパレスチナでは

翻訳／脇浜義明

パレスチナではオリーブ収穫が始まる時期である。重要な年中行事で、一〇年前まで学校も大学も二週間の農繁休暇になり、学生たちは家族と一緒に、きつい収穫作業を行なったものだった。

オリーブは神聖視され、農民とオリーブの樹の間には特別な関係ができあがった。西岸地区南部の町ヤッタの農民＝アブ・アリは、その関係を「父と息子のような関係」と言う。オリーブ油生産はパレスチナ国民所得のほぼ二五％を占め、特に西岸地区北部の農民たちの生計の糧となっている。

そのオリーブ畑が、入植地を繋ぐバイパスや分離壁建設のため、次々とブルドーザーで破壊されている。また入植者たちの格好の攻撃の的となっている。

彼らは入植地に隣接するオリーブ畑の木々を引っこ抜き、切り倒し、破壊した農地を没収して入植地の一部とする。また、嫌がらせのためにオリーブ畑を破壊し、パレスチナ人が先祖代々の土地を捨てて他所へ移るように圧力をかける。

第二次インティファーダの間、百万本以上の樹木が破壊され、その九〇％がオリーブであった。

この数年間、オリーブ収穫中のパレスチナ人への入植者の襲撃が特に頻繁になった。入植者は、オリーブ収穫がパレスチナの経済や社会発展に持つ意味を知っているから、収穫を妨害するために攻撃を強めているのである。多くのパレスチナ人が入植者の凶弾に倒れ、畑へ出かけることさえできなくなった。

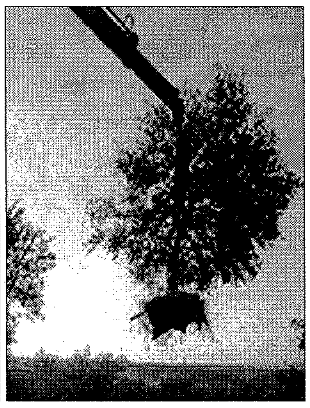
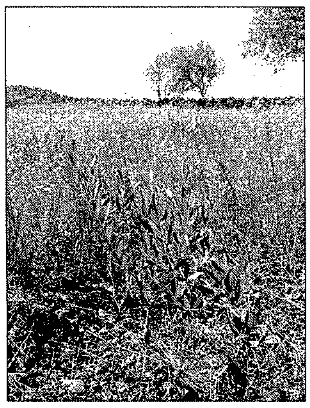
トゥバス町の農民＝アリ・トバシは悲しい顔で次のように語った。「入植者たちは私の顔に銃口を突きつけ、私を畑から追い出し、一家の歴史と尊厳を踏みにじった。祖父が植え、父が植え、私が植えたオリーブの木を、彼らは根こそぎにした。昔から代々『祖先は私たちが食べれるようにオリーブを植えた。だから私たちも子孫が食べれるようにオリーブを植えなければならない』と教えられてきた。オリーブの樹を植え、育てることが一家の仕事であり、歴史だったのです」

今年も入植者の襲撃が激しく、収穫の初日から農民は畑へ出かけることができなかったり、畑に釘付けになったりした。

ナブルスの西にあるシャラフ村では、近くのシャヴェイ・ショムロン入植地の武装入植者が、家族で収穫の仕事をやっている農民を襲った。威嚇射撃をして農民を畑から追い出した。この蛮行は警備の任務についていたイスラエル兵の目の前で行なわれたにもかかわらず、兵隊は傍観しているだけであった。

またタル村の農民＝ヒンディーヤは、イツハル入植地の入植者から「畑を立ち退け」と強要され、それを拒否すると銃の台尻で殴打され、入院しなければならないほどの大怪我を負わされた。

同じような事件がヘブロン南部の丘陵地帯にあるスシャ入植地やカーメル入植地の付近で頻発している。

▲イスラエルによるオリーブ畑の破壊（右）
ISMの協力で植樹されたオリーブの苗（左）

国際社会はグローバル規模で被抑圧者に関心を持っている

現在、分離壁で通路を遮断され、自分の畑へも行けない農民が多数いる。生計の資から分離された農民たちは、それでなくても占領で生活を圧迫されているのに、いっそう貧窮化している。

犠牲者は分離壁付近の住民ばかりではない。西岸地区全体で六〇％が貧困ライン以下の生活を余儀なくされ、二〇〇五年以来イスラエルによって封鎖されているガザ回廊では、七〇％の住民が貧困ライン以下の生活である。

しかし、必ずしも絶望的な状況ではない。国際市民社会がパレスチナ人支援に立ち上がっているからだ。各国の市民ボランティアがオリーブ収穫を手伝いにやってきている。彼ら（インターナショナルと呼ばれている）の存在が農民を入植者や兵士の暴力から守る盾の役割を果たしている。今年は、ヘブロンだけを例にとっても、二五の連帯団体が農民を手伝いにやってきた。

パレスチナ土地防衛委員会のムーサ・マハムラ委員長は、「毎年私たちを支援してくれるインターナショナルの連帯行動に感謝している。彼らがいなかったら、オリーブ収穫は不可能だったでしょう。二〇日間も私たちと共に滞在して、収穫作業を手伝ってくれました。西岸地区の他の場所でも、多くのインターナショナルが働いています。この連帯を心から歓迎し、感謝しています」と言った。

占領と入植地に反対するイスラエル人もオリーブ収穫作業に参加している。「本当の連帯、本当の和平活動が見られるのは、畑での共同作業の中です。多くのインターナショナルやイスラエル人が、私たちを兵隊や入植者の暴力から守るためにやってきて、いっしょに汗を流して作業している姿を見ると、いつも救われた気持ちになります」と、ソスヤ村の農民＝アリ・ナワジャが語った。

国際連帯運動（ＩＳＭ）、キリスト教ピースメーカー・チーム（ＣＰＴ）、世界教会会議付属プログラム（ＥＡＰＰＩ）などの団体が、特に第二次インティファーダ以降、占領地で活躍している。彼らは、日々イスラエル兵や入植者の襲撃や嫌がらせの脅威にさらされているパレスチナ住民に、直接的・物理的に守られている感覚を与えている。

パレスチナ人、地元ＮＧＯ、パレスチナ各政治団体は、このインターナショナルと一緒に、占領や暴力や分離壁に反対する非暴力デモンストレーションを行なっている。

パレスチナ人が人間らしい生活を営むためには、暴力や人権蹂躙から解放され、経済的自立が保障されなければならない。占領下ではそれは不可能である。

政治家レベルでは、国際社会はこの不正に対して沈黙しているが、市民レベルでは、国際社会はパレスチナ人支援に活発である。国際市民社会は、グローバル規模で、資本主義の抑圧的な経済支配の犠牲になっている人々に関心を抱いている。

パレスチナ日誌
（2007年12月17日～18日）

●17日、パレスチナ自治政府支援のための国際会議は参加87ヵ国・機関の代表が総額74億ドル（約8300億円）の拠出を表明し閉幕。会議後の共同議長声明でアッバス議長とファイヤド首相は、政府機関や法整備、経済復興策などについて策定した「改革開発計画」について、「野心的だが実行可能だ」と評価。08年末までのイスラエルとの和平交渉妥結という政治目標の達成に向け、各国・機関に対し、支援を着実に実施するよう要請。

●17日夜～18日、イスラエル軍はパレスチナ自治区ガザで過激派「イスラム聖戦」やハマスの活動家たちを空からミサイル攻撃し、ロケット弾発射担当の司令官や爆弾製造の専門家など計13人を殺害。イスラム聖戦は自爆テロなどの報復を宣言。

今年も共に頑張りましょう！

関西よつ葉連絡会
株式会社　府南産直センター
代表取締役　渡邊了
〒590-0132 大阪府堺市南区原山台一－一四－一二
電話（〇七二）二九六－三〇五〇
FAX（〇七二）二九〇－二二八九
URL http://www.yotuba-funan.com

(有)堀江現代経営
緑岬（ろっこう）調査研究事務所
堀江英世
〒756-0806 山口県山陽小野田市中川二－三－一一
電話（〇八三六）八三－三一八六
FAX（〇八三六）八三－二四〇八
E-mail piano.pp@do6.enjoy.ne.jp

健康に頑張ろう！
よつ葉ホームデリバリー川西
兵庫県宝塚市山本丸橋二－一－〇九
電話（〇一二〇）八一－三三七八
FAX（〇七九七）八〇－〇八三二

共に生き働く場
ぷくぷくの会
馬垣安芳

亀岡市議会議員
しのはら咲子

謹賀新年
有限責任事業組合
フリーターズフリー

言わせて聞いて　迎春 2008

皆さんの支えを誇りに
●京都　渭原武司

新しい年の始めのお便りを、年賀状で差しあげられることが、私にはとてもうれしく、年の始めの幸せです。

私は、ことし八二歳になります。この間、少年時代はあの悪夢のような戦争を体験し、敗戦後は、アメリカ軍の占領下における民主化なるものが何かを知りました。さらに講和締結後の日本は、果たして独立国なのか、そしてまた、いつか来た道をゆくのか。

このような状況の中にあって、私は何なのか、私なりの生き方を続けています。昔も今も、私を支えてくださる方があることを、私は誇りとして、私は、孤立しているのではない、と信じています。今年もよろしくお願いします。

争議解決し平穏な年越し
●福岡地区合同労組　代表執行委員・筒井　修

闘春

皆様方のご支援のお陰で、解雇争議においては、信明商事が無事和解解決に至りました。又、職場闘争におきましても、ファビルスの定期昇給ストップの攻撃を打ち破り、一〇年ぶりの定期昇給を実現させることができました。

本年は、お陰で、組合結成以来初めて、争議を抱えることのない年明けを迎えることができました。

争議を抱えることがない状況が果して労働組合としていいことかどうかわかりませんが、今、自問自答しているところです。

本年もよろしくお願いします。

今年もめげずにがんばります
●大阪　奥村貴夫

何かにつけて嫌な社会になってきましたが、今年もめげずにがんばろうと思っています。

ひきつづき、どうぞよろしくお願い申し上げます。

協同ネットワークで自治と国際連帯を
●埼玉　樋口篤三

世界・アメリカ時代の終わりの始まり、アジア・『日本盟主化』の終焉、日本・支配層の社会秩序・道徳総崩れと政治社会の根本再編が複合化して歴史的大転換の渦中です。

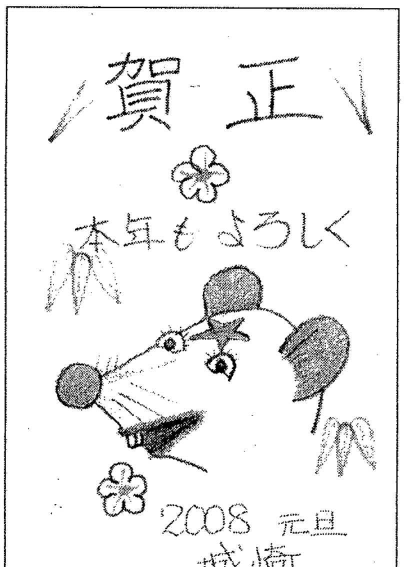
私が尊敬する尾崎秀美は、敗戦一年前に「大きく眼を開いてこの時代を見よ」と遺言に記し、『反戦革命家』の生涯を貫きました。

お互いに「天下の眼・天下の耳」をもち、長かった〝冬の時代〟の流れに抗して、共に築いた橋頭堡と道徳的知的ヘゲモニー力で、次の時代を決する斗いに打って出る好機到来です。

協同ネットワークで、地域社会・日本・東アジアを貫く市民自治、労働者自治と国際連帯を創造し切り拓きましょう。

私は初志から六一年目で八〇歳、六回目のガンをのり越えつつあります。

第三の青春で斗魂満々です！



▲米国・城崎　勉

人民新聞に期待
●平壌　かりの会　若林盛亮

旧年中、色々とお世話になりました。

貴紙の伝統が新しい時代に更に生きるよう期待しています。

原子力をめぐる大きな変動の年
●東京　たんぽぽ舎　いろりばた会議

もんじゅ再稼働、再処理工場本格運転、横須賀原子力空母母港化と二〇〇八年は原子力をめぐって大きな動きが集中します。

こうした時こそ、みなさんと集い、情報を交換し合い、力を出し合っていきたいものです。

▲神奈川・橋本　勝

今年も団結し闘いに全力を
●関西合同労働組合　日本管検工業分会一同

闘春

昨年はひとかたならぬご支援を頂き、本当にありがとうございました。本年も団結して全力で闘ってまいりますので、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

「精神病」者の〈なかま〉は入院させない！
●京都　前進友の会・やすらぎの里

『〈なかま〉は入院させない！』

『入院している〈なかま〉は救出する！』

『患者会を維持し、十全会のような病院は解体する！』

昨年、前進友の会が三一年目にして確認した原則です。

今年も希望のある年にしたいです。

控訴審が終わりました
●東拘　重信房子

私の控訴審も昨年に終えて、新年新しい気持で進みます。

独房で社会を知る一つの窓として、人民新聞を楽しみに読んでいます。

新年貴社の更なる健闘と、発展を祈ります。

波瀾万丈の時代に向き合おう
●東京　朝日健太郎　先駆社一同

今年は内外とも波乱万丈の年です。

私たちも気持ちを新たにして、時代に向き合いたいと思っています。旧来に増してご厚情を賜りますようお願いいたします。

怒りの火薬を湿らすな
●東京　渡辺亜人

日々起こる出来事、世のあり方、国の行く末には悲憤慷慨を通り越して、呆れることが多すぎるこの頃です。

人が人としてもう少し生きやすくなる世の中になるよう願うばかりです。

ひとびとは
怒りの火薬をしめらせてはならない
まことに自己の名において
立つ日のために

【編集部より】

今年も多くの皆さんから年賀状・新年のあいさつをいただきました。ありがとうございます。

全てを紹介することはできませんが、紙面をお借りして、お礼申し上げます(敬称略にて失礼します)。

読者の皆さん、今年も人民新聞をどうぞよろしくお願いします。

謹賀新年　今年も共に頑張りましょう！

大阪府議会議員
小沢福子
〒569-0077 大阪府高槻市野見町四—三九
電話 (〇七二) 六七五—一八一〇
FAX (〇七二) 六七四—一九七〇
E-mail fukko@herb.ocn.ne.jp

㈲よつ葉ホームデリバリー京阪
代表取締役　横井隆之
〒614-8142 京都府八幡市下奈良南頭一八番
電話 (〇七五) 九七一—五五〇三
FAX (〇七五) 九七一—五五〇四

地域のネットワークを武器に、
打倒グローバリズム宣言！
㈱産地直送センター
大阪府箕面市西宿二—一五—六
電話 (〇七二) 七二七—七七八〇
FAX (〇七二) 七二七—七七八九

宝塚市
市議会議員
大島淡紅子

農が世界を展く
やぎさん農園
八木正行

恥を知れ、あいりん職安！
開設以来37年間、一件の
職業紹介も無し
殺人行政大阪市！
野宿生活者の強制排除に
とどまらず
住民票まで強制削除
差別・分断のホームレス自立支援法粉砕！
ソーメン代・モチ代の廃止を許さない！
釜ヶ崎地域合同労働組合執行委員長
稲垣　浩